

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

1 今年度の重点目標

- 1) 確かな学力の育成(円山「学力向上」プラン)
- 2) 豊かな心の育成(円山「愛と絆育成」プラン)
- 3) 健やかな体の育成(円山「元気はつらつ」プラン)
- 4) 安心安全な教育環境の確保(円山「セイフティ」プラン)
- 5) 学校・家庭・地域の連携・協働(「家庭・地域連携わくわく」プラン)
- 6) 教職員個々の力を結集して取り組む学校改善(「自己啓発&共同参画」プラン)

2 学校教育目標と経営理念

学校教育目標:「進んで考える子 心豊かでやさしい子 じょうぶでやりぬく子」
 経営理念:「あふれる愛」「みなぎる力」「つよまる絆」

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
「学力」の育成	学力向上プラン	<ul style="list-style-type: none"> ・課題探究的な学習の工夫(学ぶ意欲・探究力) ・学びの見通しをもたせ、知識・技能を確実に習得させる指導の工夫 ・確かな児童理解に基づく指導 ・ICTツールの効果的な活用を通じた情報活用能力を育成する指導 	B	「課題探究的な学習」通じ、児童の学ぶ意欲と追究力を高めるための校内研修を定期的実施し、着実な成果を上げている。今後は、学びの振り返りにも重点を置き、児童が確かな手応えと成長を実感できる指導の充実に努める。 また、ICTの有効活用により、児童・教職員共に情報活用能力の向上を実感している。今後は学年ごとのカリキュラムをさらに精査し、継続的な資質・能力の育成を図る。	B	A
学校関係者評価委員会による意見		○人は生涯「学ぶ」ことが生活の中にあります。それは、単に学校における科目だけではなく、人とふれあい、関わる中で様々な事を学び、人格や個性が形成されていくものだと思います。児童会館でも意識しております。学校教職員の自覚や意識が子どもや保護者にも伝わり、良きサイクルで循環し、その先の子どもたちの個性あふれる学びにつながることを願っています。 ○ICTの活用や少人数指導など、学校の継続的な取り組みが着実に実を結んでいると感じます。児童アンケートでも「学習内容の理解」が高い数値を示しており、基礎学力の定着が見取れます。今後も、子どもたちの探究心を刺激するような質の高い授業づくりを継続していただき、子どもたちが「なぜだろう?」という疑問を自らの手で学びに変えていく力が育まれることを期待しております。 ○児童の学ぶ意欲と追究力を高めるために、引き続き、教職員の校内研修を定期的実施することが重要である。 ○ICTの有効活用により、児童、教職員ともに活用能力の向上を図っていることは、児童の成長が大いに期待できる。				
「豊かな心」の育成	愛と絆育成プラン	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ「100パーセント」 ・多様性を認め合い温かい人間関係を築こうとする心を育てる ・あこがれを生み思いやりの心を育てる 	A	学校行事を学年単位の取り組みへと発展させたことで、大きな教育的成果が得られた。今後もこの方針を継続し、活動の定着を図る。 また、異学年交流による「ななかまど活動」を軸に児童活動や学校行事のさらなる充実を通じ、全校児童の「縦のつながり」を強化する。他者理解の深化とともに、上級生への憧れや下級生への思いやりを育む教育活動を推進していく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○人との関わりの大原則であり、入り口でもある「あいさつ」の励行は私たち児童会館職員でも大切にしている。会館を利用する子どもたちがいつも元気いっぱい「ただいま」と帰ってきたり、児童クラブで毎日顔を会わせている子以外の自由来館や高学年の子も礼儀正しいのは学校での取り組みが影響しているものと考えます。今後は「後片付け」や他人がしまいがち忘れ物やゴミなどにも気づいて対応したり、お互い声を掛け合って意識できる子を育てる取り組みを願っています。 ○子どもたちの元気な挨拶や登下校時の明るい声は、地域住民にとって大きな活力となっており、円山地区全体の雰囲気をも明るくしてくれていると感じております。 ○異学年交流「ななかまど活動」が定着し、思いやりの心が育っている点は、地域コミュニティの基盤作りとしても大変心強いものです。今後、学校行事での「縦のつながり」をさらに強化する方針は、将来の地域社会を担うリーダーシップ育成にもつながるものと期待しております。				
「健やかな体」の育成	元気はつらつプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく意欲的に取り組める体育科授業の工夫 ・目標や目的意識を高める運動の日常化 ・けが防止や健康の意識向上、家庭の協力を得ながら進める生活リズムの向上 	B	縄跳びの取り組みにおいて、児童の意欲を継続させるため、日常的な活動に加えて児童会委員会と連携したイベントを計画的に実施していく。あわせて「三間(時間・空間・仲間)」の創出に努め、主体的に運動に親しめる環境づくりを推進する。 また、生活リズムの向上には家庭との連携が不可欠であるため、今後も継続的な啓発を行い、協力体制の構築を図る。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○地域性もあり、なかなか自由にのびのびと走り回ったり、ボールを投げたり蹴ったりできる環境が他の学校区の児童より少ないと感じています。その中で、学校としても工夫して運動や体力向上のカリキュラムを検討しているものと思います。円山地区の子の体力向上、健やかな身体作りは一層の検討を期待しています。 ○思い切り体を動かして遊べるような大きな公園が少ないというデメリットがある中で、学校が縄跳びのイベントや「三間(時間・空間・仲間)」の創出に努めていることは、子どもたちの健やかな成長を支える上で非常に意義のあるものと考えております。地域としても、放課後の居場所づくりなどで運動機会の確保をともに考えていければと思います。 ○「三間(時間・空間・仲間)」を保障し、学校と家庭が連携し、児童の体力向上に取り組むことが重要である。				
安心安全な教育環境の確保	セイフティプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分が大切にされている」と実感できる学級づくり ・いじめを未然防止する心の醸成 ・子どもの命を守る万全な体制づくり 	A	「校内教育支援センター」が、困難を抱える児童や家庭の登校支援に寄与し、着実な成果を上げている。次年度も本年度の運営方針を継承しつつ、さらなる認知拡大に向けた情報発信を強化し、個々の多様なニーズに即した支援体制を推進する。 安全管理においては、アレルギー対応をはじめとする健康管理業務を複数名で確認するなど、組織的かつ漏れのないチェック体制を徹底し、児童の安全確保に努める。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○「一人の人間」として、公平平等に対峙し、幼い子どもであっても人を敬い、相手を思いやることのできる人間形成が必要と思っています。年齢、学年の発達段階でアプローチ方法や手法も変わってくると思いますが、「人の尊厳」を大切に教職員の関わりとそれを理解することの成長を願っています。 ○些細なことでハラスメント事案になる昨今ですが、時には規律や尊厳を守るために厳しく毅然とした指導も必要かと思えます。そのためには、教職員・指導者である大人も時代にマッチするアップデートが重要だと思います。何か悩みや問題を抱えている児童や家庭については学校と会館で共有してともに解決に向か仕組みの構築が重要と考えます。 ○「いじめ防止」や「自分が大切にされている実感」の項目で高い数値が出ており、学校の丁寧な組織対応が結実していると感じております。特に校内教育支援センターの設置は、多様なニーズを持つ児童や家庭にとっての大きな安心材料です。登下校の安全確保を含め、地域全体で「見守りの目」を絶やさないよう、引き続き学校と密に連携していきたいと考えております。				
家庭・地域との連携・協働	家庭地域連携わくわくプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域の三者が連携・協働した教育活動の推進 ・子どものよさや成長が伝わる学習参観・懇談 ・分かりやすく正確な情報発信による学校の理解と信頼の構築 	A	保護者の来校機会を確保し、教育活動への理解を深めるため、学習参観・懇談会を今後も前後期各2回ずつ継続して実施する。あわせて「教育相談期間」を充実させ、担任と保護者間の円滑な情報共有を通じた信頼関係の構築を図る。 また、学校ホームページや「すぐる」等のデジタルツールを効果的に活用し、即時性と視認性を重視した情報発信に努めることで、学校運営の透明性を高めていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○学校や地域施設がそれぞれの立場で独自に対応しても、地域に暮らす子どもたちの成長には繋がらないと感じております。共有、協働できることがあれば一丸となって関わることで、地域住民の心豊かな生活に結び付くものだと考えています。学校はその核で、とても大切な役割があるのかと思いますし、地域がしっかりサポートできる関わりを構築していきたい。 ○デジタルツールの活用に加え、学校ホームページの更新が非常にこまめに行われている点に注目しています。学校での子どもたちの様子や取り組みが可視化されることで、保護者はもちろん地域住民も学校の教育活動を具体的に知ることができ、大きな安心感につながっています。こうした「開かれた学校」としての情報発信は、信頼関係を築く上で非常に有効であり、今後も継続していただきたい素晴らしい取り組みと考えています。 ○地域の関連機関や青少年育成委員会を活用し、バランスの取れた地域活動を推進することが大切と考えます。				